



2014/12/14

平成26年度天皇杯皇后杯全日本バレーボール選手権大会

Match Result



試合番号 607

A 試合会場レポート

■会場 東京体育館(東京) 試合開始: 12:30 試合時間 1:21
 観客数 2,700 主審: 千代延 靖夫 副審: 山本 和良

日立リヴァーレ

■監督: 松田 明彦
 ■コーチ: 角田 博文

■第1セット出場メンバー

14 佐々木	12 遠井	3 井上
11 (栗原)		
7 パオリニ	1 細川	10 内瀬戸
	8 (佐藤)	

()内は交代選手

■リベロ: 5 佐藤 あり紗

得点	セット時間	得点
19	1set(25')	25
13	2set(21')	25
23	3set(29')	25

久光製薬スプリングス

■監督: 中田 久美
 ■コーチ: 加藤 陽一

■第1セット出場メンバー

1 長岡	4 岩坂	3 新鍋
6 石井	5 水田	2 古藤
	23 (石橋)	

()内は交代選手

■リベロ: 20 筒井 さやか
10 座安 琴希

55	Total	75
0	セット数	3

■Match Comment

連日のフルセットを勝ち上がり決勝に挑む日立リヴァーレと、3連覇を目指す久光製薬スプリングスの一戦。久光製薬は岩坂のブロック、サーブで相手を崩し4点差をつけ走り出した。日立も佐藤(あ)、遠井、佐々木がレシーブで食らい付く。久光製薬は要所で新鍋、長岡がスパイクを決め、セットを先取る。第2セット、日立は1セット途中出場の栗原をスタートから、和田を交代で起用し、高さを生かそうとするが、久光製薬は古藤の的を絞らせないとスや、長岡の緩急をつけたスパイクでリードをひろげセットを連取する。第3セット、日立は栗原、内瀬戸らが粘りのスパイクレシーブで、佐々木がスパイクを決め序盤リードする。対して、久光製薬は交代で入った戸江のサーブや新鍋のスパイクで逆転する。しかし、日立は佐々木、栗原のスパイク、サーブで追いつき、サイドアウトを繰り返し粘るが、久光製薬の新鍋がスパイク、ブロックを連続で決め、3連覇をもぎ取った。

■Coach Comment: 松田 明彦(日立リヴァーレ)

本日は、沢山の声援を頂き、心より感謝申し上げます。連日のフルセットの戦いで、選手は本当によく頑張ったと思います。ただ、全力を出し切ろうと言って試合を迎えましたが、相手の攻撃、レシーブに終始リズムを握られる試合展開となってしまうました。これで2014年の試合は終了いたします。年明けからまたリーグが再開しますので、優勝できるように精進したいと思います。本日はありがとうございました。

■Coach Comment: 中田 久美(久光製薬スプリングス)

本日も大変寒い中、会場まで足を運んでいただき、本当にありがとうございました。優勝、連覇という重圧のかかる試合ではあったが、選手スタッフ共に、目の前の一戦を戦いぬく事だけに集中し試合に臨んだ。リーグ戦に負けている相手でもあったので、一人ひとりが考えチームとして高い意識を持ち行動してきたことが結果に繋がったと確信している。全員でやりきって優勝できたことは素直に嬉しいが、決してこの結果に甘んずることなく世界を見据えてさらに努力を重ねていきたいと思う。2014年の試合はこれで終わりとなるが、今後とも久光製薬スプリングスを宜しくお願いします。

■作成者: 高澤 佳江

※ 本票の著作権は公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。